

機械器具39 医療用鉗子  
一般医療機器 歯科矯正用プライヤ JMDN33209000

## ライトワイヤープライヤー

### 【形状・構造及び原理等】

角ビーク部溝付き 30-315T



角ビーク部溝付き 60-315



30-316T



カッター付き 30-316C



60-316



カッター付き角ビーク部溝付き  
30-315C



材質:ステンレス鋼、鋼材

30-315C、30-315T、30-316C、30-316Tは先端に超硬  
チップ付

### 【使用目的又は効果】

矯正歯科におけるライトワイヤー法等のアーチワイヤー各種ループ形成  
や屈曲に用いる。

### 【使用方法等】

先端、両ビークの間にアーチワイヤーを保持し、指を併用して屈曲する。  
ループ形成は、円錐状の部分に沿って屈曲します。カッターを使用する  
場合は、アーチワイヤーが飛ばない様にワイヤーの両サイドを保持し使  
用する。

【使用方法に関連する使用上の注意】

カッターを使用する場合は、アーチワイヤーが切断時に飛ばない様に十  
分注意すること。

本品は、屈曲及び切断許容範囲外のワイヤーには使用しないこと。

○60-315、60-316

: ~.018"

○30-315C、30-315T、30-316C、30-316T

: ~.020"

### 【使用上の注意】

#### 【重要な基本的注意】

- ① 上記に定めた使用目的以外の目的で使用しないこと。また、破損、曲  
がり等の原因になり得るので必要以上の応力を加えないこと。
- ② 上記に定めた操作方法、使用方法を守り、それ以外には使用しない  
こと。
- ③ 破損や事故等の原因となるので、曲げ、切削、打刻等の2次加工(改  
造)は絶対に行わないこと。
- ④ 長期の使用により金属疲労や磨耗等の劣化が生じるので、適時交換  
すること。

- ⑤ 購入時は未滅菌のため、使用前に必ず洗浄・滅菌を行い、次回から  
の使用時にも同様に行うこと。
- ⑥ 本品は、常に滅菌後の汚染に注意し、手指、未滅菌の器具などで直  
接触れないこと。
- ⑦ 本品は、使用前に必ず患者の口腔外にて、汚れ、傷、曲がり、破損  
等、性能、使用目的上支障がないことを確認すること。
- ⑧ 使用後は、附着している血液、体液、組織及び薬品等が乾燥しないよ  
う、直ちに防錆洗浄液や精製水に浸漬すること。
- ⑨ 塩素系及びヨウ素系の消毒液は、腐食の原因になるので使用を避け  
ること。使用中に附着したときには直ちに洗い流すこと。
- ⑩ 腐食(錆)の原因となるので、次亜塩素酸ナトリウム、塩化ベンザルコ  
ニウム、塩化ベンゼトニウム、ポビドンヨード、ホルマリン、フェノール、グ  
ルコン酸クロルヘキシジン、超酸性水、家庭用洗剤等は使用しないこ  
と。
- ⑪ 腐食(錆)の原因となるので、洗浄の際、磨き粉や金属ウール・金ブラ  
シ・ヤスリ等の鋼製工具を使用しないこと。
- ⑫ 電気メスを用いた接触凝固は、術者が感電、火傷をする危険性があり  
、また、器械の表面を損傷するので、併用しないこと。
- ⑬ 本品の使用により発疹、皮膚炎などの過敏症状があらわれた場合に  
は、速やかに使用を中止し医師の診断を受けること。

### 【保管方法及び有効期間等】

#### 【保管方法】

- ① 本品は、清潔で湿度が高くない場所にて保管・管理する。  
[汚染及び錆を防ぐため]
- ② 洗浄をした後、腐食を防ぐために保管期間の長短にかかわらず乾燥  
すること。
- ③ 「もらい錆」を防ぐため、錆びている器具と一緒に滅菌・保管しないこ  
と。また、化学薬品といっしょに収納・保管しないこと。
- ④ 血液、体液、組織及び薬品等が附着したまま保管しないこと。

#### 【使用期間】

- ① 本品を使用中に破損又は汚染したおそれのある場合には、直ちに使  
用を中止し、新しいものと交換すること。

### 【保守・点検に係る事項】

- ① 汚染除去に用いる洗剤は、洗浄方法に適したものを選択し、適正な濃  
度で使用する。(使用上の注意参照)  
種類によっては金属素材に影響を及ぼすことがあるため、製剤及び薬  
剤の添付文書や取扱説明書記載の用法容量に従い使用すること。
- ② 洗浄装置で洗浄するときには、器具同士が接触して損傷することがな  
いよう注意すること。また、汚れが落ちやすいようにバスケットなどに  
収納すること。
- ③ 洗浄後は、腐食防止のために直ちに乾燥すること。
- ④ 使用(滅菌)前に、汚れ、傷、曲がり、破損等に異常がないか点検をす  
ること。
- ⑤ 高圧蒸気滅菌は精製水を使用し、115~118℃で30分、121~12  
4℃で15分、126~132℃で10分、いずれかの条件で行なうこと。な  
お、滅菌の為のセット・包装にあたっては、確実に滅菌できるよう配慮  
すること。また、滅菌後は、十分乾燥させること。
- ⑥ アルコールを使用した高圧滅菌、乾熱滅菌は、劣化の原因となるため  
使用しないこと。

### 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元・製造元 株式会社 シオダ  
電話番号 0287-88-2288